

第8章 結論（おわりに）

本調査研究より、スマートデバイスの個人所有率の上昇に伴い、現在の読書活動が多様化しているものの、読書活動が活発な者の方が、現在の意識・非認知能力が高いことが示された。また、小中高と継続して読書をしている者の意識・非認知能力と認知機能が高いことも示された。今後は、本調査研究では取り上げなかった意識・非認知能力や認知機能〔例えば、読解力（Arai et al., 2018）〕との関連を検討し、読書活動の効果を多面的に明らかにする必要がある。また、小中高と継続して読書をするために必要な経験の詳細を明らかにしつつ、そのための取り組みを明確にし、その効果を検証する必要がある。